

オオウラギンヒョウモンの飼育と観察

八 木 弘

蝶友、近藤氏より2枚の枯れ葉に生み付けられたオオウラギンヒョウモンの卵を13卵戴き飼育を試みた、その観察の知見を記してみます。

☆越冬準備

食草のスマレ1株を植えた素焼き鉢(土は少なく)上部は3程程空にしておき、稲わら、枯れ草、等を短かく切って鉢の上部を覆う、越冬幼虫の保温の為、卵を此の中に入れ鉢は、2程程地上に出し土中に埋める。

針金を、鉢の内径に合せ半円型を作り、十文字に組み「ドーム」を造りストッキングを掛ける。

鉢を土中に埋めたのは、保温と乾燥を防ぎ、春先き食草のスマレの芽だしをよくする目的で、特に幼虫に対する配慮ではなかった。

屋内での越冬は暖か過ぎて冬眠を妨げて好い結果を得られないと思う。(過保護)

12月下旬 13卵無事孵化している事を確認する。

新しい年を迎えた4月中旬食草のスマレは既に4-5枚の新芽を出しているが、食痕は見られず、不安を感じる、下旬になり漸く僅かな食痕を見るも、幼虫の姿は見られず。5月中旬体長15-20mmに成長した幼虫2頭を見い出す。後を丹念に調べると、後の幼虫は総べて体長6-7mmのものばかりである。

最初に「サナギ」に成ったのは、6月3日である、その時点で最少の幼虫は7-8mm程度であった。その後の過程は次の通りである。

- | | | | |
|-----|-----------|-----|----|
| 1 群 | 6月3日-5日 | サナギ | 2頭 |
| 2 群 | 6月14日-15日 | サナギ | 3頭 |
| 3 群 | 6月24日-25日 | サナギ | 3頭 |
| 4 群 | 7月3日-6日 | サナギ | 3頭 |

☆羽化は次の通り

- | | | |
|-----|-----------|-------|
| 1 群 | 6月17日-18日 | 2♂ |
| 2 群 | 6月27日-28日 | 3♂ |
| 3 群 | 7月7日-8日 | 2♂ 1♀ |
| 4 群 | 7月14日-16日 | 1♂ 2♀ |

☆飼育、観察の結果から

飼育頭数が少ないので上記のデーターで判断するには過ちもあると思うが、大方の傾向は示されているものとして、知見を述べてみます。

年末に孵化した幼虫は、春となり食草の芽立ちを待つて一勢に食餌するものと思っていたが、実はそれぞれの幼虫に、プログラムが組込まれそのプログラムにしたがい、生育していく様である。上表の如く「4つのグループ」に分かれ約10日間隔で生育している。

「サナギ」は約2週間で羽化し成虫となる。

上記の通り、1群と2群は総べて♂ばかりである。3群は「♂2」「♀1」4群は「♂1」「♀2」の結果である。

以上から見る限り、♀蝶は遅れて発生する様であるが各群毎に♀蝶が交じっていてもと思われるが此の点は飼育頭数を増やせば、自ら答えが出るであろう。

幼虫は、食餌の時以外は、食草を離れ身を潜めるため2-3齢幼虫で、その姿を見付ける事は、困難であった。

体長20mm程度に成った頃より別の鉢植えの食草に移し各群毎に飼育した。一度に多く飼育すると固体が小さく成る傾向がある。13卵中、成虫となったのは11頭である、2頭は幼虫で行方不明となる。

以上取り留めもない拙文となりましたが、何かの参考に成れば幸いです。

Hiroshi Yagi

相生市

夏の石垣島で採集した蝶

広 畑 政 己

1988年8月9日の半日と10日の1日間石垣島で蝶を採集する機会に恵まれた。何しろ1日半という強行軍のため、パンナ岳を中心に、川平、登野城、吉原など南西部の地域で南国の蝶とその環境に触れてきただけという印象の強い採集行であった。従って新しい記録や知見など何も得られない状態ではあったが、採集と目撃記録だけでも書き留めておきたい。

アゲハチョウ科

1 シロオビアゲハ

パンナ岳 10-VIII-1988 1♂ 吉原 10-VIII-1988 1♂2♀

2. ベニモンアゲハ

パンナ岳 9-VIII-1988 1♂ 吉原 10-VIII-1988 2♀

3. クロアゲハ

吉原 10-VIII-1988 1♂1♀ パンナ岳 9-VIII-1988 1♀